

第1学年B組 音楽科学習指導案

授業者 小林 葉子
研究協力者 吉澤 恭子

1 題材名 わくわくリズム

2 子どもと題材

(1) 子どもについて

歌うこと、音楽に合わせて体を動かすことが好きな子どもたちである。入学以来これまで、情景を思い浮かべながら歌ったり、曲の雰囲気に合わせて身体表現をしたり、わらべうたに合わせて友達と手遊びをしたりする活動を楽しんできた。また、即興表現として4拍の言葉遊びも経験し、少しずつ拍の流れを意識するようになってきている。各々の音楽経験の違いによって生じている表現力の差も、小さくなりつつある。

(2) 題材について

本題材では、子どもたちが楽しみながら、4分音符や8分音符、4分休符のリズムを感じ取ったり、拍の流れにのって表現したりすることを大切にする。

《ぶんぶんぶん》は、子どもたちの耳に馴染みのある、歌いやすい旋律の曲。拍の流れにのって手拍子をしたり、友達と手合わせをしたりすることにより、4分音符と4分休符のリズムをしっかりとらえることができる。

《しろくまのジェンカ》、鑑賞曲《ジェンカ》では、どちらもジェンカのリズムが繰り返されている。そのリズムを手拍子しながら歌ったり、友達と動きを揃えて身体表現したりする中で、音符だけでなく、休符の役割の重要性をも感じ取ることができる。

《わくわくキッチン》ではハンバーグができて上がっていく様子が、《ポンポンポップコーン》ではポップコーンがはじける様子が、歌詞に表されている。そのため、場面を想像しやすく、拍の流れにのりながら身振りを入れ、楽しく歌うことができる。また、擬音部分を歌詞に合わせてリズム打ちすることにより、4分音符に加えて8分音符のリズムも意識した表現へとつながっていく。さらに、ハンバーグを料理する様子やポップコーンがはじける様子に合う擬音を考えてマイリズムをつくることもできるため、音楽づくりにも適している。

(3) 指導について

本題材の新たな価値は、拍の流れやリズムに着目し、自分や友達の音をよく聴きながら拍の流れにのり正しいリズムで表現するという「見方・考え方」を働かせて、音と音をつなぐ楽しさを味わうことである。そのため、手拍子を打ちながら歌ったり、リズムに合わせて体を動かしたりするなど、音楽と一体になる活動を積極的に取り入れる。また、4拍のリズムを即興的につくるリズム遊びも継続的に行う。その際重要なのが、音符の長さだけでなく、休符の長さも正しく表現することである。しかし、1年生の子どもたちにとって、それは難しい感覚である。そこで、絵譜を使って視覚的に分かりやすくしたり、リズム打ちと同時にリズム唱をしたり、演奏に合わせて教師が拍打ちで支援したりしながら、正しい拍感を身に付けることができるようにしていく。

子どもたちにとって、自分のリズム、自分の表現は常に一番の存在であり、友達の表現にはなかなか目が向かない。そこで、リズム遊びには、個→全体→個→…というように聴いたリズムを模倣する活動を取り入れる。このことにより、友達の表現にも耳を傾け、そのよさを取り入れることができるようになるものと期待する。また、手合わせや、ジェンカのステップなど、友達と合わせて表現する活動では、一人では得られない音楽表現の楽しさを十分に味わわせたい。出だしを揃える、息や動きを合わせるなど、友達と合わせて表現するために必要な要素一つ一つが「対話」につながる。そして、題材後半のリズムづくりでは、自分のリズムを増やしたり、友達と交互にリズムを打ったり、友達とリズムをつないだり重ねたりする。これまでの経験を基にしたこれらの活動が、子どもたちにとって新しい表現が生まれる場になるものと考え。学びを通して蓄えられる様々な経験が、子どもたちの音楽活動をさらに広げていく力になるものと期待している。

3 題材の目標〈記号は本校の資質・能力表による〉

- (1) 拍の流れにのって歌ったり、リズム表現をしたりする学習に進んで取り組もうとする。
〈ウ・エ〉
- (2) 拍の流れやリズムを感じ取りながら、曲の感じに合ったリズムを工夫してつくることができる。
〈A-34・〔共通事項〕1a(ア)・シ〉
- (3) 2拍子や4拍子のリズムを体全体で感じ取りながら歌ったり、拍の流れにのってリズムを打ったりすることができる。
〈A-1・4・16・シ〉
- (4) 拍の流れや反復するリズムを感じ取り、リズムに合わせて体を動かしながら聴くことができる。
〈B-5・〔共通事項〕1a(ア)(イ)・セ〉

4 題材の構想(総時数5時間)

時間	学習活動	教師の主な支援	評価〈本校の資質・能力との関連〉
1	(1) 拍の流れにのって「ぶんぶんぶん」を歌ったり、歌に合わせてリズムを打ったりする。 (2) 4分音符と4分休符を組み合わせて4拍のリズムをつくり、まねをしたり、リレーをしたりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8分音符が連続する旋律部分の手拍子が速くならないように、拍打ちを入れて支援する。 ・ リズムづくりに安心して取り組めるように、はじめに教師のリズムを模倣する場をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2拍子のリズムを感じ取り、拍の流れにのって歌ったり、リズム表現をしたりする学習に進んで取り組もうとしている。 〈〔共通事項〕1a(ア)・ウ・エ・シ〉
2	(3) 拍の流れにのってジェンカのリズムを打ちながら「しろくまのジェンカ」を歌う。 (4) ジェンカのリズムを感じ取りながら、鑑賞曲「ジェンカ」を聴く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4分休符や付点のリズムをしっかり感じ取ってジェンカのリズムを打てるように、手拍子、ひざ打ち、ステップなど、全身を使ってリズム打ちを繰り返す活動を位置付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ジェンカの反復するリズムを感じ取り、拍の流れにのって歌ったり、リズムに合わせて体を動かしながら聴いたりしている。 〈A-1・B-5・〔共通事項〕1a(ア)(イ)・セ〉
3	(5) 料理ができ上がっていく様子を思い浮かべ、4分音符と8分音符のリズムを意識しながら「わくわくキッチン」「ポンポンポップコーン」を歌う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 擬音部分を動作化したり歌詞とリズム打ちを一体化したりする活動を行い、8分音符のリズムを正しくとらえることができるように支援する。 ・ ポップコーンがはじける様子をイメージできるように、映像を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2拍子や4拍子のリズムを感じ取りながら歌ったり、拍の流れにのって4分音符や8分音符のリズムを打ったりしている。 〈A-4・16・シ〉
4 本時	(6) 「ポンポンポップコーン」の擬音部分のリズムを工夫してつくる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ポップコーンがはじける様子を擬音で表す活動を取り入れ、リズム打ちが正しくできるようにする。 ・ 自分と友達のリズムの違いを聴き比べることができるよう、互いのリズムを聴き合う場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ポップコーンがはじける様子に合うように、4分音符や8分音符、4分休符を組み合わせて、リズムをつくっている。 〈A-34・〔共通事項〕1a(ア)・シ〉
5	(7) 「わくわくキッチン」の擬音部分のリズムを工夫してつくり、友達と合わせて演奏する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のリズムと友達のリズムをつないだり、重ねたりできるように、ペアで活動する時間を保障する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 料理する様子を表した歌詞に合うように、音符や休符を組み合わせてリズムをつくっている。 〈A-34・〔共通事項〕1a(ア)・シ〉

5 本時の実際 本時 (4 / 5)

(1) ねらい

音符や休符の組み合わせを工夫して、ポップコーンがはじける様子を表すリズムをつくらることができる。

(2) 展開

○：「仲間との対話」を通して新たな価値を創造するための手立て

時間	学習活動	教師の支援	評価
5分	① リズム遊びをする。	<ul style="list-style-type: none"> 拍の流れによって、4拍のリズムを一人→全体→一人…とリレーできるように、打楽器の拍打ちで支援する。 	
3分	② 擬音部分をリズム打ちしながら、「ポンポンポップコーン」を歌う。		
12分	③ 「ポンポンポップコーン」の擬音部分のリズムを工夫してつくる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 学習課題 ポップコーンがはじけるように、ポップコーンリズムをつくらう。 </div> 【自分との対話】【仲間との対話】 〈予想される子どもの反応〉 <ul style="list-style-type: none"> わたしのポップコーンは「ポポポポポン◆」ってのはじけるよ。聴いてね。 Aさん「ポポポンポン◆」のリズムが違うよ。もう一回やってみて。 	<ul style="list-style-type: none"> ポップコーンがはじける様子をつくるリズムが結び付くように、はじめに「ポン」「ポポ」の擬音で表す活動を取り入れる。 自分が表した擬音に合わせて正しくリズムを打っているか確かめることができるように、擬音を声に出しながらリズム打ちをするよう助言する。また、ペアで活動する場を設け、互いのリズムを聴き合えるようにする。 つくったリズムを何度も打って試すことができるように、リズムを記譜する用紙を準備する。 	
10分	④ つくったリズムを聴き合う。 【自分との対話】【仲間との対話】 〈予想される子どもの反応〉 <ul style="list-style-type: none"> Bさんのリズムには「ポポ」がたくさんあるね。わたしとは違うけれど、Cさんと似ているな。 Dさんのリズムには「◆(ウン)」が2回あっておもしろいな。今度わたしもやってみよう。 	○ 友達のリズムを聴いてまねする活動を行うことにより、自分と友達のリズムの違いを感じ取ることができるようにする。また、発表したリズムを絵譜で表し、視覚的にも分かりやすいように支援する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 4分音符や8分音符、4分休符を組み合わせ、ポップコーンがはじける様子が分かるように、自分のリズムをつくっている。 〈A-34・[共通事項] 1a(ア)・シ〉(演奏、発言) </div>
12分	⑤ ポップコーンリズムをつないだり、重ねたりして楽しむ。 【自分との対話】【仲間との対話】 〈予想される子どもの反応〉 <ul style="list-style-type: none"> ポップコーンができ上がるまで時間がかかるよ。みんなでリズムをつなぐといいんじゃないかな。 最後はたくさんはじけるから、みんなでやるといいよね。 	○ 前時に見たポップコーンがはじける映像を想起させることで、2小節より長い方がよい、だんだん音を増やす必要があるという気付きを引き出す。その後全体の場で、リズムをつないだり重ねたりするアンサンブルを試すことにより、友達と一緒に表現する楽しさに気付くことができるようにする。	
3分	⑥ 本時の学習をふり返る。	<ul style="list-style-type: none"> 自分のリズムをつくることや、友達とリズムをつないだり重ねたりすることのおもしろさ確かめ、次時への意欲付けを図る。 	

(3) 「仲間との対話」を通して新たな価値を創造する子どもの姿



